

授業科目名	問題解決のための国際協働論	単位数	2
担当教員名	つばうち としのり 坪内 俊憲	担当形態	単独
実務内容	主に開発途上国地域において自然保全、野生生物保全管理分野の国際協力プロジェクトに関わる専門家、およびコンサルタント業務に従事してきた現場型教員として、星槎大学大学院においては環境教育特論他、星槎大学においては共生のための地球行動論、問題解決のための国際協働論、生物多様性と資源利用などの科目を担当。学生を始め広く参加者を募りモンゴル、ボルネオでのスタディーツアーを共生実習として企画・実施している。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という星槎大学の三つの約束のもと、国際協力の現場報告を学び、どのような国際協力があり、どのような人が、どのような考えて協力現場に臨んでいるかの学習を通して、問題を解決するための国際協力現場で必要な資質能力を考察し、以下の資質能力を獲得することを目的とした科目である。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 地球環境問題、社会問題の現実を知る。</p> <p>(2) 開発協力の枠組み、問題解決の多様な方法と活動について知る。</p> <p>(3) 現場報告から日本の環境協力を学修する。</p> <p>(4) 問題を解決するための国際協働作業は生活、仕事の中にも多くあることを理解する。</p> <p>(5) 国際協働で問題を解決するために必要な考え方実践力とは何か考察する。</p>			

授業の概要

人類存続のため、地球環境問題の解決は一刻の猶予もなくなっている状況にもかかわらず、世界各地では紛争が絶え間無く続いている。問題解決のための国際協働のための基盤的理解として地球環境問題と世界の現実を知る。その基盤の上で、地球環境問題、社会問題解決ために努力している現場の報告を知り、国際協働によってのみ解決できることを理解する。国際機関、各国政府、非政府機関（NGO）などがどのように国際協力を行ってきたか学習する。国際環境協力現場の報告から、地球環境問題、社会問題を解決するための国際共同を行う際どのように考え、どのように判断し、行動しなくてはならないか考察する。考察から、問題解決のための国際協働行動は、多様な方法があり、生活、仕事の中でも多くあることを理解する。その理解の元、問題解決するための国際協働活動に関わる知識、考え方を発展させ、判断力、実践力を獲得する。

授業計画

- 第1回：世界の環境問題の現実を知る（参考図書：地球環境問題とは何か）
- 第2回：世界の社会問題、環境問題の原因を探る（参考図書：世界を不幸にしたグローバリズムの正体）
- 第3回：国際協力という名のものに行われている搾取の一旦を知る。（参考図書：エコノミックヒットマンなど）
- 第4回：開発の目指すものを知り、平和と公正を実現する方法を考える。（教科書1、2章）。
- 第5回：宇宙船地球号の舵取りを考える。（教科書3章）。
- 第6回：途上国における開発への取り組み、イノベーションを知る。（教科書4、5章）。
- 第7回：グローバリゼーションについて考察する。（教科書6章）
- 第8回：政府が行なっている国際協力の考え方、枠組みを知る（参考図書：開発援助の経済学「共生の世界」と日本のODA）
- 第9回：国際協力を行なっているNGO（非政府機関）とはどのような組織か学習する。
- 第10回：国際環境協力の現場報告から現場における協働作業の現実を知る（映像資料）。
- 第11回：民間企業が行なった国際協力についてなぜ行なっているのか考察する（映像資料）。
- 第12回：地球環境問題、社会問題を解決するために国際協働が不可欠な理由を考察する。
- 第13回：問題を解決に必要な国際協働実践には、どのように考え、どのようにアプローチしなくてはならないか考察する。
- 第14回：問題解決のための国際協働実践は、日々の生活、仕事の中にも多くあることを理解する。
- 第15回：国際協働によって問題を解決するために必要な考え方、判断、行動について考察する。

スクーリングでの学修内容

スクーリングは概説を説明し、映像資料を見た後、地球環境問題、社会問題を国際協働で解決して行くために必要な考え方、判断、実践力についてディスカッション形式で考察する。

（主に第13、14、15回の内容を含む。）

教科書

「国際協力がってなんだろう-現場に生きる開発経済学」高橋和志（編集）、山形 辰史（編集）、（岩波ジュニア新書） ISBN-13: 978-4005006687、ISBN-10: 400500668X

参考文献

- ・ 世界にもし日本がなかったら、池間哲郎著、育鵬社。
- ・ 日本はなぜアジアの国々から愛されるのか、池間哲郎著、扶桑社
- ・ 世界を不幸にしたグローバリズムの正体 ジョセフ・E. スティグリッツ（著）、鈴木 主税（翻訳）、徳間書店
- ・ エコノミックヒットマン～途上国を食い物にするアメリカ、ジョン・パーキンス著、古草秀子訳、東洋経済新報社
- ・ ショック・ドクトリン、ナオミ・クライン著、幾島幸子・村上由見子訳、岩波書店
- ・ コーヒー、カカオ、コメ、綿花、胡椒の暗黒物語～生産者を死に追いやるグローバル経済、ジャン・ピエール・ボリス著、作品社。
- ・ Wildlife and Poverty Study, December 2002, DFID
- ・ 開発援助の経済学「共生の世界」と日本のODA 西垣昭、下村恭民著、有斐閣；第4版（2009/5/1）
- ・ 企業が取り組む生物多様性入門、足立直樹監修、日本能率協会マネジメントシステム。
- ・ ODA 援助の現実 鷲見 一夫（著）、岩波新書
- ・ 嫌われる援助 鷲見 一夫（著）、築地書館
- ・ 村落開発と国際協力～住民の目線で考える、草野隆久編、古今書院
- ・ UNEP、UNDP、世銀、IMF、外務省、環境省、WWF、Green Peace、TNC、CI、IFAW ホームページ

学生に対する評価

レポート評価（25%）スクーリング評価（25%）、科目修得試験評価（50%）を総合して評価する。